



日本植物病理学会ニュース 第88号

(2019年11月)

【学会活動状況】

1. 第15回植物病害診断教育プログラム

第15回植物病害診断教育プログラムは、令和元年9月9日から13日まで、岡山大学農学部において開講しました。今回のプログラムの募集人員は20名でしたが、受付開始後、瞬く間に定員に達してしまい、急遽24名に増員しました。それでも4~5名の方には申し訳ございませんでしたが、お断りせざるを得ませんでした。受講できなかった方には是非次年度以降の受講をお願いします。今回のプログラムには、北海道から沖縄県の全国各地から24名の若い方々が参加しました。そのうち学会員は14名、非会員10名でしたが、2名の方は新たに学会の正会員に加わりました。学会員の中には留学生1名を含む3名の学生も含まれていました。社会人の内訳は県の農業試験場・研究所が12名、種苗・農薬・資材会社など民間会社から9名でした。

初日の午前中、第13回植物病害診断教育プログラムに倣い、初心者希望者を対象として、糸状菌病について岡山大学の山本幹博氏が、細菌病は一瀬が、ウイルス病は岡山大学資源植物科学研究所の近藤秀樹氏が講義を行うという内容のプレプログラムを実施しました。受講者は16名にもなりましたが、受講者の熱意・意識の高さが感じられました。昼過ぎの開会式では実行委員会を代表して一瀬が、歓迎の挨拶をさせて頂き、柘植尚志学会長のご挨拶を頂きました。その後、鳥取県農業試験場の長谷川優氏から水稻病害の診断のコツと題した講義が行われました。また、午後6時半からの情報交換会（市内の料亭「はまゆう」）には受講者22名にスタッフ、講師ら総勢31名が参加し、瀬戸内の魚と銘酒を片手に交流を深めました。

2日目は株式会社大熊の竹下慎一氏による顕微鏡基礎講習が行われました。顕微鏡の基礎・操作において留意すべき点など改めて顕微鏡について学ぶ方も多く、好評でした。その後、農研機構・西日本農業研究センターの川口章氏と農研機構・果樹茶業研究部門の清水健雄氏により果樹病害

の診断とその処方箋について、講義と実習が行われました。今回の教育プログラムは岡山での開催ということもあり、フルーツ王国岡山の代表的果実であるブドウとモモの病害診断が本プログラムの特徴の一つであったと思います。

3日目の午前中は岡山県農林水産総合センターの桐野菜美子氏と前述の川口章氏により野菜病害の診断としてまず講義が行われ、実習では主にトマト青枯病やかいよう病の診断を行いました(写真1)。午後は、日立ハイテクノロジーズ関西支店の伊藤洋明氏に卓上サイズの走査電子顕微鏡を紹介して頂いた後に、農研機構・西日本農業研究センターの川上顕氏と富岡啓介氏にムギの異常粒の診断として、主に赤かび病について講義・実習が行われました。また、この日の夕方には16名が参加して大学近くの地ビール「吉備土手小麦酒醸造所」で第2回情報交換会が行われました。

4日目の午前には前日に引き続き富岡啓介氏と同センターの関口博之氏により植物病原糸状菌の分離法と培養法についての講義が行われ、引き続いてアスパラガスを用いた病原糸状菌の分離が行われました。また、同日午後には、広島県総合技術研究所農業技術センターの松浦昌平氏によりDIBA法による植物病原ウイルスの診断について講義と実習が行われました。



写真1 教育プログラムで実習の様子



写真2 修了式を終え、岡山大学の本プログラム会場にて

最終日5日目には、岡山県農林水産総合センターの森本泰史氏により、野菜・花のウイルス病害の遺伝子診断の講義・実習が行われました。昼までの限られた時間の中で効率よくPCR、電気泳動、写真撮影により原因ウイルスの診断・同定を実習することができました。そうして、全プログラムが無事終了し、一瀬から受講者全員に修了証を授与しました(写真2)。

プログラムを通して受講者と講師の先生方、あるいは受講者同士が気軽に情報交換できたことは、大きなメリットであったと思われます。最終日に実施した受講者のアンケートを拝見しても、皆様には概ね満足して頂けたと思われれます。

本プログラムでは受講者募集時より、社会のニーズが高いということを再認識しました。また、留学生の中には母国で大学や国・地方の研究機関に勤務されている方も多く、日本語の問題はありますが、かなりの需要があると思われました。今回は中国ブロックでの実施でしたので、岡山県をはじめとした近隣県の農業試験場関連の先生方、農研機構の西日本農業研究センターと果樹茶業研究部門の先生方には講師として多大なご協力を賜りました。また、岡山大学農学部で豊田和弘氏、山本幹博氏、能年義輝氏、松井英譲氏、資源植物科学研究所の近藤秀樹氏には実行委員として本プログラムを支えて頂きました。ここに記して感謝申し上げます。(一瀬勇規)

2. 研究会・談話会等開催報告

第54回植物感染生理談話会

令和になって最初の植物感染生理談話会は、8月28日から30日まで、北海道帯広市の郊外にある十勝川温泉(笹井ホテル)において開催されました。北海道での開催には毎回本州からの参加者に多額の交通費を強いることになる

ため、どのように参加者を募るのか運営側にとって非常に頭の痛いところでした。それでも、今回は予測をはるかに上回る64名の参加者を数え、私ども運営サイドも非常に安堵したところです。

運悪く佐賀に記録的な大雨が降り、講師のお一人である佐賀大学の大島先生が東京で1日足止めされて、遅れて到着するなどのハプニングもありました。また、主催者サイドでも、主にホテルとの交渉を担当してくれた農研機構北海道農研センターの上田さんが4月に三重県の野菜花き研究部門に転勤してしまい、大いに心細い状態での運営でした。しかし、当日、上田さんが早めに駆けつけて参加者の便宜に努力してくれた他、会計担当の中馬先生にはご家族3人でホテルに泊まり込み、受付の対応に万全を期していただき、大きな問題もなくスムーズに運営できたところとほっとしているところです。当日、受付での出納処理に駆けつけてくれた北海道立総研十勝農試の東岱さんには、この紙面にてお礼申し上げます。

初日のテーマを「北海道特産作物の病害：古くて新しい病害」に設定し、10名の方にご講演いただきました。例えば、「コムギに発生するいもち病」、「次世代シーケンサーで検出されるブドウの新ウイルス」、「軟腐病との判別が難しいジャガイモの黒あし病」(写真3)などの話題の他、様々に変容する作物の病気と病原体にどのように対応していったらよいのか、参加した皆さんも認識を新たにしないでしょうか。

2日目は、特別講演を2題、そしてもう一つのテーマである「ビッグデータの解析の実践」について5題、計7題の少し長めの講演を通じて、演者の先生方に参加者の討論のために話題提供していただきました。特別講演では、北



写真3 初日の発表風景

北海道で最近ブームになっている「ワイン醸造用のブドウ栽培」について、病害との戦いに焦点をあて、北海道大学の曾根先生にご講演をいただきました。もう一つは、東京農大の對馬先生に最近何かと話題の「AIによる病害診断システム構築」に関する国家プロジェクトや對馬先生のそれとの関わり合いについて紹介いただきました。

また、毎回、行われているポスター発表には21件の応募がありました。2日目の昼食をはさんでの1時間半を討論にあて、参加者全員の投票にて優秀賞を2件選出しました(写真4)。優秀賞に選出されたお二人は、名古屋大学大学院生の今野沙弥香さん(ベンサミアナの*Phytophthora*属菌に対する非宿主抵抗性に必須な分泌ペプチドSAR8.2の機能解析)と愛媛大学大学院生の井上博さん(宿主表皮細胞におけるオオムギうどんこ病菌の栄養吸収メカニズムの解析)です。お二人ともストレートでわかりやすいポスターを準備したことが評価されたものと思います。



写真4 発表優秀賞を受賞した井上さん(中央)と今野さん(右)



写真5 ブドウ畑での病害調査

最終日は、北海道のブドウに発生している病気を診てもらうためエクスカージョンを企画し、十勝ワイン城を訪問しました(写真5)。バスでのタイトな移動でしたが、よいワインを作るためには病気の対策がいかに重要であるのか実感していただけたのではないのでしょうか。

次の植物感染生理談話会(再来年)を九州で開催することを確認し、宮崎大学の竹下先生を中心とした運営布陣に準備いただくことになりました。「分子の作用を知って、防除に役立てる」という実学の立ち位置は植物病理学に極めて重要なことです。植物感染生理談話会がこれからも植物病理学の将来を支える若い研究者の「夏の強化合宿の場」になることを期待しまして報告にかえたいと思います。

(増田 税)

【会員の動静】

1. 人事

岩井 久 2019.4 鹿児島大学 理事・副学長
(企画・社会連携担当)

2. 学位取得者(課程博士・論文博士)

Htet Wai Wai Kyaw

2018.9 九州大学大学院 資源生物科学専攻 博士(農学) Studies on the pathological and genetic characterization of *Ralstonia solanacearum* in Myanmar

【会員の関連学会等における受賞のお知らせ】

晝間敬氏(奈良先端科学技術大学院大学)が、2019年度(第18回)日本農学進歩賞を受賞されました。日本農学進歩賞は、財団法人農学会が農林水産業およびその関連産業の発展に資する農学の進歩に顕著な貢献をした優秀な若手研究者を顕彰する賞です。受章の対象となった研究業績は、「糸状菌の植物寄生・共生戦略と植物応答の多様性に関する研究」です。

【学会ニュース編集委員コーナー】

本会ニュースは、身近な関連情報を気軽に交換することを趣旨として発行されております。会員の各種出版物のご紹介、書評、会員の動静、学会運営に対するご意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクト研究の紹介などの情報をお寄せ下さい。下記宛先まで、よろしく願ひ申し上げます。

投稿宛先：〒114-0015 東京都北区中里 2-28-10

日本植物防疫協会ビル内

学会ニュース編集委員会

FAX：03-5980-0282

または、下記学会ニュース編集委員へ：

藤田佳克，足立嘉彦，大島研郎，池田健太郎，久保田健嗣

学会ニュース第 88 号をお届けします。本号は、夏に行われた講習会、談話会の開催報告を中心に掲載しました。病害診断教育プログラムが 9 月 9 日から 13 日まで岡山大学農学部で開催されました。本プログラムは毎年行われていますが、今回は、初心者向けに糸状菌病、細菌病、ウイルス病それぞれについて事前講義を行うなど、実施方法に工夫を凝らし、様々な分野の参加者には大変有意義な 5 日間となったようです。一瀬勇規先生はじめ講師の皆様、運

営にご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。

植物感染生理談話会が、8 月 28 日から 30 日まで帯広市十勝川温泉で開催されました。「北海道特産作物の病害」や「ビッグデータの解析」など、専門の先生方による興味深い講演が行われています。また、ポスター発表と、その中で優秀な発表者への表彰も行われています。有意義な集いになったようで、談話会を運営された幹事の皆様に厚くお礼申し上げます。

うれしいお知らせです。晝間敬氏が日本農学進歩賞を受賞されました。誠におめでとうございます。これからの益々のご活躍とご発展を祈念申し上げます。

学会関連の行事予定を本会 HP に掲載しております。それを参考に多くの皆様にご参加いただきますようご期待申し上げます。
(藤田佳克)

日本植物病理学会賛助会員 (ABC 順)

アグロカネショウ株式会社	307-0001 茨城県結城市結城 9511-4	0296-21-0175
アリスタライフサイエンス株式会社	104-6591 東京都中央区明石町 8-1 聖路加タワー38階	03-3547-4417
BASF ジャパン株式会社	103-0022 東京都中央区日本橋室町 3丁目 4番 4号 OVOL 日本橋ビル 3階	03-5291-3821
バイエルクロップサイエンス株式会社	100-8262 東京都千代田区丸の内 1丁目 6-5	03-6266-7413
ダウ・アグロサイエンス日本株式会社	100-6111 東京都千代田区永田町 2-11-1 山王パークタワー	03-3519-3243
エフエムシー・ケミカルズ株式会社	100-0004 東京都千代田区大手町 1-1-1 大手町パークビル 8階	03-5208-1010
ホクサン株式会社	061-1111 北海道北広島市北の里 27-4	011-370-2103
北興化学工業株式会社	103-8341 東京都中央区日本橋本町 1-5-4 住友不動産日本橋ビル	03-3279-5831
出光興産株式会社	300-2646 茨城県つくば市緑ヶ原 2-1	029-847-0513
井上石灰工業株式会社	781-0112 高知県高知市仁井田 1641	088-847-0615
石原産業株式会社	525-0025 滋賀県草津市西渋川 2-3-1	077-562-3574
カゴメ株式会社	329-2762 栃木県那須塩原市西富山 17番地	0287-36-2935
科研製薬株式会社	113-8650 東京都文京区本駒込 2-28-8 文京グリーンコートセンターオフィス	03-5977-5032
クミアイ化学工業株式会社	110-8782 東京都台東区池之端 1-4-26	03-3822-5165
株式会社クレハ 生産・技術本部 いわき事業所	974-8686 福島県いわき市錦町落合 16	0246-63-5111
株式会社久留米原種育成会	830-0064 福岡県久留米市荒木町藤田 1422-1	0942-26-2943
協友アグリ株式会社	103-0016 東京都中央区日本橋小網町 6-1 山万ビル 11F	03-5645-0700

丸和バイオケミカル株式会社	101-0041 東京都千代田区神田須田町 2-5-2 須田町佐志田ビル	03-5296-2313
Meiji Seika ファルマ株式会社	104-0031 東京都中央区京橋 2-4-16	03-3273-3433
みかど協和株式会社	298-0202 千葉県夷隅郡大多喜町下大多喜 2789-1	0470-82-2413
三井化学アグロ株式会社	103-0027 東京都中央区日本橋 1-19-1 日本橋ビルディング	03-5290-2700
株式会社日本医化器械製作所	543-0014 大阪市天王寺区玉造元町 3 番 9 号	06-6765-0223
日本化薬株式会社	314-0255 茨城県神栖市砂山 6	0479-40-2771
日本農薬株式会社	104-0031 東京都中央区京橋 1-19-8 京橋 OM ビル	03-3274-3415
日本曹達株式会社	100-8165 東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル	03-3245-6210
一般社団法人日本植物防疫協会	114-0015 東京都北区中里 2-28-10	03-5980-2181
株式会社ニッポンジーン	930-0834 富山県富山市問屋町 1-8-7	076-451-6548
日産化学株式会社	103-6119 東京都中央区日本橋 2-5-1 日本橋高島屋三井ビルディング 18・19 階	03-4463-8330
農薬工業会	103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 2-3-6 宗和ビル 4 階	03-5649-7191
OAT アグリオ株式会社	101-0052 東京都千代田区神田小川町 1-3-1 NBF 小川町ビルディング 8 階	03-5283-0251
大内新興化学工業株式会社	103-0024 東京都中央区日本橋小舟町 7-4	03-3662-6451
株式会社理研グリーン	110-8520 東京都台東区東上野 4-8-1 TIXTOWER UENO 8F	03-6802-8587
サンケイ化学株式会社	891-0122 鹿児島県鹿児島市南栄 2-9	099-268-7588
株式会社エス・ディー・エスバイオテック	103-0004 東京都中央区東日本橋 1-1-5 ヒューリック東日本橋ビル 3 階	03-5825-5522
シンジェンタジャパン株式会社	104-6021 東京都中央区晴海 1-8-10 オフィスタワー X 21 階	03-6221-3819

住友化学株式会社	104-8260 東京都中央区新川 2-27-1	03-5543-5621
株式会社トーホク	321-3232 栃木県宇都宮市氷室町西原 1625	028-667-1321
論文翻訳ユレイタス	101-0021 東京都千代田区外神田 2-14-10 第 2 電波ビル 402A	03-3525-8001
米澤化学株式会社	601-8455 京都府京都市南区唐橋芦辺町 14	075-681-9526
全国農業協同組合連合会	100-6832 東京都千代田区大手町 1-3-1 JA ビル 33 階	03-6271-8289
全国農業協同組合	101-0047 東京都千代田区内神田 3-3-4	03-3254-4171